



杏林大学皮膚科学教室



2022年度 入局案内

1. はじめに

杏林大学医学部皮膚科学教室の専攻医研修プログラムを皆さんにご紹介できる機会を持てることをとても嬉しく思います。皮膚・付属器疾患の大きな特徴のひとつに「患者さんが直接、病変をみることが出来る」ことがあげられると思います。それだけに、疾患が患者さんに与える精神的・社会的負担は私たちが考えている以上に大きなものがあります。



それをしっかりと受け止め、ともに力をあわせて治療へと導くためには単に医療知識・技術だけではなく、丁寧さ、優しさ、誠実さ、包容力、など様々なものを合わせた「人間力」が必要になります。大きく「人間力」を発揮するためには個人的な努力や意思も大切ですが、まず自分自身の生活が充実したものでなくてはなりません。そのためにも親身になって寄り添ってくれる指導医、辛いときに一緒に乗りこえてくれる仲間たち（医師だけでなく、看護師、医療スタッフ、事務方の皆さんなど全員です）はとても大切な要素です。

ひょっとするとすでに教室見学にいらした皆さんは感じてくれているかも知れませんが、当教室の最大の魅力は、良い意味でのアットホームな雰囲気にあると思います。それは私の自慢でもあります。なぜなら、日々、充実感をもちながらもリラックスできる、よい環境があればこそ、本当に困った時に実力を発揮できるからと考えるからです。医療者が疲弊しては、心に余裕がなければ、病に苦しむ方々に良い医療を提供するのは困難だと考えます。教室はそこに集う医療者をサポート

する責務をもつと考えており、その実現のため教室スタッフ一同全力で取り組んでおり、その成果が今の教室であると思います。

東京とは言え広い多摩地域でたった一つの特定機能病院ですから、要求される医療の質・量ともに実力をつけるには十分なものです。当教室はアレルギー、自己免疫性疾患などを専門にするとともに、皮膚悪性腫瘍や再生医療にも積極的に取り組んでいるため、内科的な方向に歩むこともできますし、外科的な方向性を向いて進むこともできます。

当教室では上下なく皆で力をあわせて、診療・研究・教育に取り組んでいます。皮膚科指導医の割合は他の施設と比べても高く、マンツーマンの指導といっても過言ではない丁寧な研修指導（学会発表・論文作成指導など含む）を受けることができます。地域に根ざした連携施設も充実しています。ぜひ、この武蔵野の地で私たちと一緒に皮膚科医として活躍してみませんか。皆さんからのご連絡をお待ちしています。

杏林大学皮膚科学教室

主任教授／診療科長

大山 学

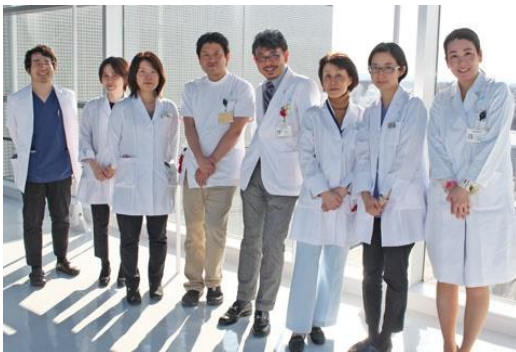
2. 杏林大学皮膚科学教室の特徴

- ① 多摩地区唯一の大学本院及び特定機能病院であり、豊富な症例を経験できる
- ② 「ほどよい大きさ」の医局であり、丁寧で密度の高い指導体制
- ③ ライフイベントと研修の両立を目指した一人ひとりの個性を尊重したキャリア形成をサポート

杏林大学医学部付属病院は東京の西、いわゆる吉祥寺・三鷹エリアの井の頭公園や三鷹の森ジブリ美術館近くの閑静な地域に位置しています。都心に近いながらも、病院の周囲には、まだ武蔵野の面影が残る周囲は都心と比べると少しゆっくりとした時間が流れ、受診される患者さんやご家族、そこで働き、学ぶ者たちもほどよくリラックスできる、そのような環境のなか、当教室員は皆で力を合わせ日々の診療、教育、研究に勤しんでいます。

当院は東京都多摩地区では唯一の大学の本院であり、特定機能病院でもあることから、地域医療の中核となっています。そのような状況を鑑み、当教室は「皮膚に生じた疾患にはすべて対応する」ことをポリシーとしていますので、研修ではcommon diseaseから希少疾患まで実に多彩な症例を経験することができるよう。多摩地域の高齢化に伴い増加傾向にある皮膚悪性腫瘍の治療に積極的に取り組んでいることも特徴で、皮膚外科の技を磨く機会も多くあります。つまり、皮膚科専門医として必要な技能、知識は当教室での研修の過程で自ずと身につくことが期待できます。また、研究にも積極的に取り組んできた歴史があります。

当教室は、決して「大教室」ではありません。私たちの理想は「誇りをもった mid-size department」です。他の診療科同様、皮膚科専門医として修得すべきことは膨大です。それを確実に身につけていくためには学ぶ姿勢のみならず、丁寧でゆきとどいた指導が大切です。そのためには「一人一人が見える」サイズの教室が良いと考えています。教室員が互いにリスペクトし合い、さらに向上していくためにも「ほどよい大きさ」は重要であると思います。当教室は常勤医師の半分弱が皮膚科専門医・指導医という密度の高い指導体制をとっています。いつでも、質問したい時に側に指導医がいるのは、専攻医（いわゆる機構認定皮膚科専門医を目指す後期研修医）にはとても心強いことでしょう。さらに女性医師が約7割を占めていることから、ライフイベントと研修の両立を目指し、一人ひとりの個性を尊重したキャリア形成をサポートしています。



3. 医局員紹介

主任教授 大山 学

臨床教授 水川 良子（外来医長）

講師 倉田 麻衣子（医局長）

学内講師 木下 美咲

助教 佐藤 洋平（病棟医長） 下田 由莉江

任期助教 福山 雅大 嵩 幸恵 青木 孝司 木村 真衣

医員 伊藤 有亜

専攻医 波田野 冴佳 野邊 美月 林 航
(後期研修医) 石井 愛巳 高須 由真 八木橋 健人

大学院生 早川 怜那

連携施設への出向者 13名（部長を除く）

4. 研修プログラム

当教室の研修プログラムは通常プログラムに加え、2021年度より東京都以外の地域医療に貢献することを目的に、浜松医科大学皮膚科学教室の協力を得て静岡県限定の連携プログラムを設けました。どちらも充実した研修が送れるようなプログラムとなっています。

通常プログラム 若干名

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	基幹/連携	基幹/連携	基幹
b	基幹	基幹/連携	連携/基幹	基幹/連携	連携
c	連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹
d	基幹	基幹	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
e	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

通常プログラムのモデルとして上の5つの研修コースを設定しています。多くの専攻医（いわゆる機構認定皮膚科専門医を目指す後期研修医）の先生が、aコースの研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースで研修しています。連携施設は原則として1年ごとで異動することが多いですが、諸事情により期間が延長や短縮することがあります。また基本的に、1年目は大学病院での研修を予定していますので、医局の雰囲気すぐに慣れ、スムーズに研修をスタートすることができると思います。臨床も研究もしっかり行いたい、専門医取得と学位取得を目指したい場合は、dコースやeコースで研修期間中に大学院と両立していくことも可能です。

連携プログラム（静岡県） 若干名

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹/連携	連携	連携/基幹	基幹
b	基幹/連携	基幹/連携	連携/基幹	連携/基幹	基幹/連携

2021年度より新たに静岡県限定の連携プログラムを設定しました。5年間の研修期間中、1.5年以上静岡県の浜松医科大学医学部皮膚科研修プログラムに準じた研修を行います。浜松医科大学医学部皮膚科では、専門外来として当教室には設定のないアトピー性皮膚炎外来、皮膚リンフォーマ外来を設けており、豊富な経験を積むことが可能となっています。

5. 杏林大学付属病院での研修について

杏林大学付属病院での研修は、数ヶ月ごとに外来担当、病棟担当に専従し研修を行っています。病棟担当時にも専門外来での研修は適宜行っており、より専門性の高い知識を習得できるようになっています。

週間予定表（外来研修）の一例

	月	火	水	木	金	土
AM	外来 陪席 /再診	外来陪席 /再診	外勤	外来陪席 /再診	外来陪席 /再診	外来陪席 /再診 (隔週)
PM	生検 小手術	毛髪外来 病理カン ファレンス	外勤	教授回診 カンファ レンス	生検 小手術	

外来研修では、主に初診医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験します。一般診療はもちろんのこと、各種特殊外来（腫瘍外来、アレルギー外来、毛髪外来、光線外来、発汗外来）にも陪席し、研修を積んでいきます。重要症例では皮膚生検を行い、毎週の病理カンファレンスにて発表し、診断や治療について深く学んでいきます。



週間予定表（病棟研修）の一例

	月	火	水	木	金	土
AM	病棟医長回診 病棟カンファ レンス	外勤	回診 処置	カンファ レンス準 備	中央手術室 手術	回診 処置
PM	皮膚生検	外勤 病理カ ンファ レンス	処置室 手術	教授回診 カンファ レンス	中央手術室 手術	

病棟研修では、病棟医長のもと数チームの診療チームを設けて入院患者さんの治療を行います。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得していきます。毎週の病棟回診で、受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、病棟カンファレンスでは他の病棟医や担当看護師、病棟薬剤師などと共に患者さんの治療方針を検討します。毎週の病理カンファレンスでは難治症例や手術症例の症例発表を行い、診断や治療について深く学んでいきます。



6. 関連施設（連携病院）

当教室では、ほとんどの関連病院が東京都内、特に本学からの交通の便の良い中央線、京王線沿いにあり、生活圏を変えることなく研修を続けていくことが可能となっています。原則として、研修1年目は大学病院で行う方針となっており、研修2年目以降に関連病院での研修を行っていきます。関連病院での研修は、皮膚科のcommon diseasesをしっかりと経験していく上で非常に重要です。

東京都

- ・ 都立多摩総合医療センター（府中市）
- ・ 多摩南部地域病院（多摩市）
- ・ 公立阿伎留医療センター（あきる野市）
- ・ 佼成病院（杉並区）
- ・ 荻窪病院（杉並区）
- ・ 稲城市立病院（稲城市）
- ・ 都立墨東病院（墨田区）
- ・ 成育医療研究センター（世田谷区）
- ・ 立川病院（立川市）
- ・ 東京医療センター（目黒区）
- ・ 済生会中央病院（港区）
- ・ 慶應義塾大学病院（新宿区）
- ・ 昭和大学病院（品川区）

神奈川県

- ・ 相模原協同病院（相模原市）

埼玉県

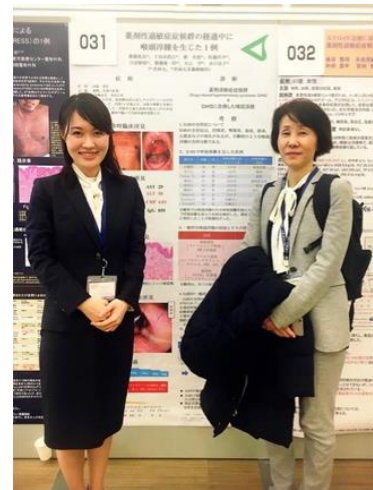
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター（川越市）

静岡県

- ・ 浜松医科大学医学部付属病院（浜松市）

7. 学会参加、論文作成

学会発表は、研修1年目の秋から冬に開催される日本皮膚科学会東京支部地方会でデビューすることが多いですが、状況により時期は前後します。その後も年に2回以上、筆頭演者として学会発表を行うことを目標としており、発表した内容は年に1編以上、筆頭著者で論文を作成します。そのためしっかりと研修を積んでいけば、皮膚科専門医試験を受験する際に、前実績のポイントが足りなくて受験できないということはほとんどありません。学会発表や論文作成に必要な文献は杏林大学医学部図書館のリモートアクセスでダウンロード、または、図書館で閲覧あるいは取り寄せることができます。



8. キャリア支援について

当教室は、女性医師が約7割を占めていることから、ライフイベントと研修の両立を目指し、一人ひとりの個性を尊重したキャリア形成をサポートしています。医局員は子育て中の医師も多く、仕事やプライベートで困ったときに気軽に相談し助け合える環境です。教授をはじめ、子育て経験がありながら活躍するロールモデルとなるような先生が多数いることも大きな魅力の一つです。時間に制限のある先生でも参加できるように、カンファレンスなどは要点を押さえスムーズに行われています。

また、杏林大学付属病院では女医復職支援制度があり、お子さんが小学校に入学するまでの間、当直を免除し勤務時間を週3日もしくは4日で選択できる制度が導入されています。

9. その他

杏林大学皮膚科学教室HP

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/derma/>

給与・待遇については下記HPを参照してください

http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/edcenter/index.php/lt_training/l_require

若手医局員の声

医局の雰囲気が柔らかく、相談もしやすい環境で、上級医の丁寧な指導のもと、日々楽しく有意義な時間を過ごしています。

医局員は出身大学を問わず全国から集まっています。幅広く症例を経験でき、病理も基礎の段階から勉強することができます。

指導医も非常に教育熱心な先生が多く、働きやすい環境です。



学会発表の機会も多く、経験を積み見聞を広めることができます。

10. 2022年度専攻医募集について

杏林大学皮膚科学教室では、2022年度専攻医の募集を開始しています。
第1回入局説明会を、2022年6月23日（木）にZoomを利用したwebで開催する予定としました。少しでも当教室に興味を持たれた方は是非下記までご連絡ください。



日時	2022年6月23日（木） 19:30から（予定）
会場	Zoomを利用したweb開催 <u>招待メールについては下記までお問い合わせください</u>
担当	倉田 麻衣子（医局長） ✉ derma@ks.kyorin-u.ac.jp

2022年度専攻医の募集は日本専門医機構による東京都枠へのシーリングへの対応の必要から、2021年9月初旬に一次選考として書類選考を行う予定であり、それに先行し約一週間の応募期間を設ける予定です。

〒181-8611
東京都三鷹市新川6-20-2 杏林大学皮膚科学教室
医局長 倉田 麻衣子

☎ 0422-47-5511 / 📠 0422-47-9632
✉ derma@ks.kyorin-u.ac.jp

入局に関する質問・連絡を是非お待ちしております！